
夢の工場

音宮 音音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の工場

【著者名】

アーティスト

【作者名】

音宮 音音

【あらすじ】
ここからすゞへ遠い場所。そこには、なんだか不思議な工場があります。

まぶしい朝。

灰色の箱の中。

そこには、少し背丈の小さい、小太りなおじさんたぐさん居ました。

おじさん達はみな、ちょっと派手な色の作業着を着ています。

おじさんの中のリーダーのような人が、言いました。

「今日もたぐさん作るべーーー！」

すると、他のおじさん達は、

「おーーー！」

と、応えました。

おじさん達は、少しむちびしい頭におそろいのキャップをキュッと被り、ベルトコンベアの前にズラリと並びます。

ガタン、ガタン。

ベルトコンベアはグルグル回っています。

その上には色・形・材質の違う様々なモノが流れています。

赤色、青色、黄色。

虹のよつな色をしたモノもあります。

家のように大きなモノもあれば、見失つてしまつて、小さなちいさなモノもあります。

鉄のように固いモノもあれば、マシュマロのように柔らかいモノもあります。

おじさん達は、それをカナヅチで打つたり、くつつけたりして、一
つずつ形を整えていきました。

すると、まるで彫刻のよつな、素敵なモノができます。
おじさん達はそれを何個も作っていました。

たまに、少し形の変なモノが出来てしまつたけど、それは『愛嬌。

また、気を取り直して次のモノを作ります。

鼻歌を歌いながら、おじさんは次から次にたくさんのモノを作りました。

した。

夕方になりました。

おじさん達の作ったモノは、トラックに乗つて様々な場所に運ばれます。

一年中寒くて、ペンギンすら嫌がる場所とか、暑すぎて我慢強い人じやないと住めない場所とか。

トラックは野を越え山を越え、ついでに海まで越えて、街に着きました。

街に着いたら、様々な人に届けられます。

隣の鈴木さん、斜向かいの田中さん、近所にホームステイに来てるジエニファーさん。

そして、あなたのもとにも届けられました。

「わあ～、やつときた！待ってたんだ、ずっと。」

それは、夢。

みんなが叶えたかった夢。

形は、思つてたのと少し違うかも知れない。でも、とっても素敵になつたでしょう？

それは、憧れ。
みんなが手に入れたかった憧れ。

少しだけ、小さくなつているかも知れない。でも、キラキラ輝いているでしょう？

「ありがとう！」

そこは、ずっとずっと遠い場所。
みんなが知らない、見た事もない場所。

でも、確かにそこにはあるのです。

夢の製造工場が。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7983c/>

夢の工場

2011年1月9日00時14分発行